



医療経営士ニュース | これからの医療現場を担う経営人材のための機関紙

MMS NEWS

2020 3 月号
Vol.109
毎月1回発行(通巻109号)
編集:日本医療企画

一般社団法人日本医療経営実践協会 〒101-0033 東京都千代田区神田岩本町4-14 神田平成ビル7F TEL.03-5296-1933 <http://www.JMMPA.jp/>

2020年「新春講演会」&「新春の集い」を盛大に開催

ベストセラー作家・神渡良平氏が講演! 医療・福祉に必要な真の「人間力」を学ぶ



[右]「新春講演会」の冒頭で挨拶に立った吉原健二代表理事
[左]優しい語り口で人間力の大切さを説く神渡良平氏

【第一部・新春講演会】
吉原健二代表理事が挨拶
医療経営士の役割を示す
冒頭、主催者挨拶に立った吉原健二代表理事は、日本の医療が抱える課題として、①増え続ける国民医療費、②医師・看護師等の確保、③病院の統合・再編を含めた医療提供体制の再構築——の3つを挙げ、「これらの課題を解決していくことが医療経営士の果たすべき役割」と、医療経営士の

一般社団法人日本医療経営実践協会は2月1日(土)、富士ソフトアキバプラザ(東京都千代田区)にて2020年「新春講演会」と「新春の集い」を開催した。第一部の新春講演会では、作家の神渡良平氏が「偉人に学ぶ医療・福祉の人間力」をテーマに登壇。第二部の新春の集いでは、全国各地から医療経営士および協会関係者が駆けつけ、交流を深めた。

一層の活躍に期待を寄せた(挨拶要旨を3面に掲載)。
偉人が教えてくれた
本場に大切な生き方とは

新春講演会では、作家の神渡良平氏が「偉人に学ぶ医療・福祉の人間力」をテーマに登壇した。神渡氏は九州大学医学部を中退後、雑誌記者などを経て作家となり、中村天風や安岡正篤などの生き方や精神をテーマとする人間学のベストセラーを世に送り出してきた。作品の底流には38歳のときに脳梗塞で倒れ、必死のりハビリで社会復帰を果たした経験から、「一度きりの人生をとりこぼさないためにはどうしたらよいか」という問題意識があるという。



神渡氏が語る感動的なエピソードに多くの参加者が感銘を受けた

などに触れながら、「マザー・テレサのグループは非常に深いところで患者さんの魂と付き合っていた。だからこそ、その活動が世界中に広がっていったのだでしょう」と話した。

次に神渡氏は、著書『下坐に生きる』(致知出版社)をきっかけとした柔道家・山下泰裕氏とのエピソードを披露。同書で紹介された、山下氏が感銘を受けたという詩人・坂村真民の「尊いのは足の裏である」という詩を朗読し、他者に寄り添い思いやりを持って生きるこの大切さを説いた。

すべては天からの導き
人生に無意味なものはない
続いて、神渡氏は自らの闘病生活でリハビリに力を注ぐことができたきっかけとして、「論語」の一節「今汝は、画(か)れり」を挙げた。「孔子が弱音を吐く弟子の再求(まねが)を論じたこの言葉を知り、良いことだけでなく、

助成総額上限1,000万円! 医療経営士の挑戦を求め!

第3回(2020年度)「医療経営に関する研究助成」案件募集

1 懸賞論文「日本医療経営実践賞」
【公募締切】5月11日(当日消印有効)

- ▶ 募集内容 医療経営に関する論文でテーマは自由とする
※懸賞論文と指定課題研究の両方に応募することは可能だが、指定課題研究と同一テーマで応募することは不可
- ▶ 対象者 医療経営士および医療経営に携わる個人・グループ
- ▶ 懸賞金額 優秀な論文を表彰し、併せて賞金100万円を授与する
- ▶ 原稿字数 12,000字以上20,000字以内 ※未発表論文に限る

2 指定課題研究
【公募締切】3月31日

- ▶ 募集内容 ①医療サービスの質の向上 ②医療におけるICTの活用
③医療におけるタスクシフティング ※①~③いずれか1つの課題を選択。同時応募は不可
- ▶ 対象者 医療経営士および医療経営に携わる個人・グループ
- ▶ 助成金額 1件当たり50万円~250万円を予定(件数未定)
※指定課題研究助成と懸賞論文とを併せて総額1,000万円を上限とする
- ▶ 助成研究期間 原則1年間(2020年6月1日~2021年5月31日)

【申請方法・詳細】必ず専用ホームページ(<http://www.jmmpa.jp/grant>)をご確認ください 【審査・選考】選考委員会において公正かつ慎重に審査し、採否を決定します



「新春の集い」開会前に行った記念撮影

壁に当たるといふ経験も含めて天からの導きなのだと思つて、奮起してみようと思つた」と振り返った。

また、四国遍路の途中で出会った老婆とのエピソードを回顧。「その老婆は私の魂を拜んでくださった。その姿からすべての存在、命そのものが尊いのだという気づきを得た。人生にお

いて意味のないものはない」と述べ、講演を締め括った。

【第2部「新春の集い」】
3組の医療経営士が
新年の抱負や目標を語る

第2部「新春の集い」では、小林利彦代表理事代行の挨拶のあと、日本医療経営実践協会関東支部支部長



小林利彦代表理事代行 安藤高夫関東支部支部長 三浦あかね氏 稲邊富實代氏

で衆議院議員の安藤高夫氏の音頭で乾杯が行われた。安藤氏は自身が大会運営委員長を務め、10月に開催される第9回「全国医療経営士実践研究大会」東京大会について触れ、「ぜひ、多くの医療経営士に参加していただきたい」と呼びかけた。

歓談のあと、株式会社クラウドクリニック看護部長の三浦あかね氏、医療法人沖繩徳洲会榎原総合病院副院長の稲邊富實代氏、関東支部神奈川研究会事務局メンバー4人の3組がそれぞれ登壇し、医療経営士を代表して挨拶を行った。



神奈川研究会事務局メンバー 小川眞史理事

ける事務作業のアウトソーシングという自社の事業を紹介しながら、「医師の働き方改革に貢献することも、ライフイベントによって中断されがちな女性のキャリアを支援する活動を行っています。医療経営士として得た知識も活かしながら社会課題の解決に取り組んでいきたい」と話した。

稲邊氏は、母親を亡くして生きがいを見失ったなかで医療経営士の資格に出会い、新たな挑戦としてその取得を目指したことを打ち明け、「前提としてあるのは社会に貢献したいという思いです。医療経営士の取得はゴールではなくスター



「新春の集い」では医療経営士と協会関係者が交流を深めた

医療経営士の実績が評価される社会へ

最後に、当協会理事で一般社団法人日本衛生検査所協会理事の小川眞史氏が中締め挨拶。「医療経営士が病院経営のデファクト・スタンダードとなり、その実績がきちんと評価されるような社会の実現に向けて、アンストしていきたい」と決意を新たにし、会は盛況のうちに幕を閉じた。

ト。これからの活動を通して医療経営士としての使命を果たしていきたい」と述べた。

神奈川研究会事務局メンバー4人は、同研究会の今年の目標として、全国大会に多くの発表者を輩出、オンラインを通じた新たな交流の場づくりなどを挙げ、「やることはたくさんあるが、未来の医療をどうにかしたいという志を持つ人材のネットワークを構築を目指していきたい」と語った。

医療経営士の参加も大歓迎！ 協力団体セミナーのご案内

第5回「全国栄養経営士のつどい」名古屋大会

栄養経営士が切り拓く食と栄養の明日 栄養分野の大変革期に示すべき指針を探る

2020年3月7日出

▶日 時：2020年3月7日 10:00～16:40(懇親会17:00～18:50)

▶会 場：imy会議室 8F大会議室 [名古屋市東区葵3-7-14]

▶参加料：栄養経営士・医療経営士・介護福祉経営士…5,000円
定期購読者・基礎講習修了者…6,000円 一般…7,000円
※税込、事前登録の場合、参加料の区分は下記ホームページ参照
※懇親会別途5,000円

主なプログラム ※敬称略、プログラムは変更になる場合がございます

基調講演 **臨床栄養管理部門を支える給食部門のマネジメント**(仮)
西岡心大(長崎リハビリテーション病院栄養管理室)

特別講演 **噛む力、飲み込む力を鍛える食事——口の機能を向上させるカムカム弁当のすすめ**(仮)
松尾浩一郎(藤田医科大学医学部歯科・口腔外科学講座主任教授)

●**栄養経営士による実践報告・ディスカッション** ※栄養経営士6人が登壇予定

●**パネルディスカッション「2020年度診療報酬改定で栄養部門はどう変わるか(仮)」**
[座長]宮澤 靖(一般社団法人日本栄養経営実践協会代表理事)
[パネリスト]笠舞和宏(大阪明徳病院臨床栄養科) / 島田晶子(名古屋ハートセンター栄養科) ほか



2020年「新春講演会」吉原健二代表理事挨拶(要旨)

効率的で最善最適な医療の実現に向けて 医療経営士のより一層の活躍を期待する!

明けましておめでとうございます。東京オリンピック・パラリンピックが開催される今年は、日本はもちろんのこと、世界中が湧く年になると思いますが、皆様とともに大会の成功と日本人選手の活躍を期待したいと思います。

さて、医療経営の専門家である医療経営士を育成することを目的として2010年に設立した当協会は、今年10周年の節目の年を迎えます。この間、医療経営士の資格認定試験を中心に事業を行ってまいりましたが、この10年間に3級は28回、2級は18回、1級は7回、あわせて53回の試験を実施しました。受験者は約4万2,000名、合格者は3級が約1万8,000名、2級が約1,800名、1級が88名で、あわせて約2万名の方が合格されました。そのうち1万2,371名の方が当協会の正会員として、医療機関をはじめ、製薬・卸売などの医療関連企業、金融機関等でご活躍されています。

また、全国に8つある当協会の地域支部では、医療経営士の方々の意見交換・情報交換とさらなる知識の向上、実践力の習得を目的に研究会等を定期的に開催し、毎年1回その集大成として全国大会を行ってまいりました。昨年、仙台で開催した全国大会は、今年は東京で行う予定であります。このようにこの10年間、私どもが想像していた以上に事業を順調に進めることができましたのは、当協会の役員

はもちろんのこと、支部長はじめ関係者の皆様のご尽力の賜物であると厚く御礼申し上げます。

一方、全国に約8,000ある病院、約10万ある診療所等で働く医療経営士の方は、いまだ1,800人程度と会員全体の2割に達していません。また、医療経営士の資格を取りたいと希望しておられる方もまだまだ少なくないため、本年もこれらの事業をさらに進めるとともに、次の10年をどのような10年にするかを考えてまいりたいと思っております。これからもご指導・ご支援のほどよろしくお願いいたします。

さて、安倍内閣は戦前の桂太郎内閣、戦後の佐藤栄作内閣を超えて日本の憲政史上最長の政権となりました。安倍首相は新年恒例の伊勢神宮参拝後に行った年頭の記者会見、そして通常国会の所信表明演説において、「今年は全世代型社会保障の実現に最大限の努力をしたい」と発言されました。社会保障のなかでも大きな部分を占める年金については、今年改正法案の国会提出が予定されていますが、医療について安倍内閣は何をしようとしているのでしょうか。

私は日本の医療はいま3つの大きな課題を抱えていると思います。1つ目は現在約43兆円まで膨らんだ国民医療費を誰がどう負担するべきかという課題です。国民医療費は医学や医薬品の進歩などにより

将来的に50兆円、60兆円と増え続けるのではないかと予想されており、これを全部医療保険で賄い切れるかという問題もあります。2つ目はこれから生産年齢人口や働き手が大きく減少するなかで、医師や看護師などの医療従事者をどのように確保したらよいか、デジタル社会やネット社会が進むとともにAIやロボットの普及も進むでしょうが、医療分野でそれらをどう活用していったらよいか、医師や看護師の働き方をどう変えていったらよいかなどという課題であります。3つ目は全国約8,000の病院をどう再編・統合し、一病院中心ではなく地域中心へ医療提供体制をどのように構築していったらよいかという課題です。

これらはいずれも大変大きな課題で、そう簡単に答えが出る問題ではありません。加えて、これらに共通する目標はいかにしてできるだけ少ないお金、少ない人材で効率的に最善、最適の医療を提供していくかということにあります。そして、私はその達成、実現こそが、医療の現場において医療経営士の方々が中心となって果たすべき最大の役割、お仕事だと思っています。

新年にあたり、医療経営士の方々には自らの役割、お仕事について誇りと使命感を新たにし、お元気でより一層のご活躍いただくことを期待して、私の新年のご挨拶といたします。

医療経営指導士が登壇！ 医療・介護経営セミナー

入場
無料

2020年度診療報酬改定を読み解く

～これからの病院経営戦略とは～ 3月4日(水)宇都宮、3月11日(水)さいたまで開催!

開催概要

- ▶ 日程・会場：3月 4日(水) 宇都宮会場
【栃木県総合文化センター】
- 3月11日(水) さいたま会場
【埼玉県男女共同参画推進センター】
- ▶ 時間：13:00～16:30(受付開始12:30、両会場共通)
- ▶ 参加費：無料
- ▶ 対象者：医療・介護従事者、関連企業
- ▶ 主催：株式会社日本医療企画
- ▶ 共催：大和ハウス工業株式会社

- ▶ 講演① 13:00～14:30 ※会場により講師が異なります
2020年度診療報酬改定を読み解く～これからの病院経営戦略とは～
・【宇都宮会場】長英一郎氏(東日本税理士法人代表社員・所長)
- ・【さいたま会場】網代祐介氏(社会医療法人社団光仁会第一病院医療福祉連携室室長兼法人管理企画部経営企画室)
- ▶ 講演② 14:40～15:30
失敗しない病院建て替え ・シップヘルスケアリサーチ&コンサルティング株式会社
- ▶ 講演③ 15:40～16:30
大きな目標に向け、個々の力を最大に活かすチームづくり ― 働き続けることが出来る環境づくり ―
・茂木健太氏(Co-Creations株式会社代表取締役)

九州支部「医療経営士沖縄県自主勉強会」が発足!

病院事務職員の資質向上を図り、地域医療の課題解決に貢献したい

代表世話人・西尾雅夫氏インタビュー

沖縄県の医療経営士が主体となって活動する「医療経営士沖縄県自主勉強会」が発足。1月31日(金)に「沖縄県における地域医療構想の現状と課題」をテーマとする第1回勉強会が開催された。同会の代表世話人である西尾雅夫氏(医療法人おもと会大浜第一病院事務次長兼経営戦略室長、医療経営士2級)に、勉強会立ち上げの動機や今後の活動についてうかがった。



「医療経営士沖縄県自主勉強会」代表世話人の西尾雅夫氏

互いに高め合える交流の場をつくりたい

私が医療経営士を取得した当時、所属していた医療機関では資格取得を評価していただけませんでした。が、私自身は学会等を通じて他病院の医療経営士たちと交流し、仕事のモチベーションにつながりました。この経験から、資格取得で終わるのではなく沖縄県内の医療経営士が交流できる場をつくり、共にスキルアップを図りたいと考えようになりました。そこで、医療経営セミナー等で縁があった社会医療法人敬愛会中頭病院経理課長の奥平和樹氏(医療経営士1級)と用度課長の岡本健太氏(同2級)に世話人として協力してもらい、「医療経営士沖縄県自主勉強会」を発足しました。

1月31日(金)に那覇市にある当院で開催した第1回勉強会は、代表世話人で

ある私が講師を担当しました。テーマについては、九州支部事務局にご協力いただき、事前に実施した県内の医療経営士に対するアンケートで最も興味・関心が高かった「沖縄県における地域医療構想の現状と課題」としました。

参加者は17名と予想よりも多く、病院職員だけでなく金融機関、税理士法人、ヘルスケア関連企業など幅広い所属先の方々が集まりました。地域医療のあるべき姿について共に学び、議論を深めることができました。今後は2か月に1回程度の頻度で定期的開催していくことが目標です。次回3月下旬に株式会社沖縄銀行にて開催を予定しています。

地域貢献に向けて学び続ける姿勢が重要

地域包括ケアシステムの構築は自らが所属している医療機関だけではできません。

ん。他の医療機関や介護事業所、ヘルスケア関連企業の協力が不可欠です。「医療経営士沖縄県自主勉強会」をきっかけに県内で活躍する医療経営士が業界の垣根を超えて集い、沖縄県における理想の地域医療提供体制の実現に向けて真剣に議論・実践することで、地域社会に貢献していきたいと考えています。

に、自身の仕事に誇りとやりがいを持てるようになるためには、1人ひとりが自己研鑽を重ね、生涯にわたって勉強し続けていく必要があります。地域社会に貢献できる医療経営士を目指して共にがんばりましょう!



第1回勉強会では、西尾氏が沖縄県の医療動向と課題を概説したあと、参加者同士で議論が行われた

一般社団法人日本医療経営実践協会公認

新講座、続々開講! 専用サイトで受講者募集中

医療経営士 実践研究講座

実践力が身につく3つのポイント

- ★医療経営の現場を熟知した医療経営士から学べる!
- ★短期間で実務能力を高めるカリキュラム!
- ★双方向型の効果的な授業スタイル!

- 主催・運営 日本ヘルスケア経営学院
- 会場 ニッテン神田ビル3Fセミナールーム (東京都千代田区神田東松下町17)
- 定員 各講座35名

■受講料(税込) ※割引制度有

「一日 特訓講座」 (5~8時間程度、昼食付)

医療経営士:4万円/一般:5万円
※一般のみ入学金1万円。受講者には履修後、修了証または受講証明書を発行

「短時間 集中講座」 (2~4時間程度)

医療経営士:1万5,000円/一般:2万円